

数学者ガロアの発見 解説 元教諭・小林さん(坂井)が著書

坂井市の元教諭、小林吹代さん(63)が、フランスの天才数学者、エヴァリスト・ガロア(1811～1832年)の大発見と言われる「有限体」について解説した本「ガロアの数学『体』入門」を陣とオイラー方陣を例に」を発売した。

小林さんは2014年に退職するまで県内の公立校で数学を教えた。教員時代から「これ以上やさしく書けない微分・積分」「学校では教えない数学のツボ」などを出版しており、今回が10冊目。

ガロアは、5次以上の方程式に解の公式が存在しないことを示した「ガロア理論」で有名。有限体は、加減乗除(足し算、引き算、掛け算、割り算)ができる集合を指す「体」のうち、集合の構成メンバーの個数が有限個しかないものを言う。本書では有限体と幾何を結び付け、数字のパズルを題材にしなが、分かりやすく解説している。

ガロアは数学上の大発見をしたにもかかわらず、生前は評価されず、決闘によって20歳で生涯を閉じた。激しい人生は数学愛好家の間でファンも多いという。小林さんは「数学教員や数学を学ぶ大学生、ハイレベルな高校生に読んでほしい」と話している。

技術評論社。255頁。1680円(税別)。県内書店で扱っている。(宇野和宏)



天才数学者ガロアに関する本を出版した小林さん(坂井市内)